

八日市地方遺跡から 新たな発見

八日市地方遺跡は、小松駅の東側に広がる弥生時代のとても大きな遺跡です。平成5年から小松市が行った発掘調査によって、今から2400年前ごろからおおよそ300年もの間栄えた北陸最大級の集落だったことが分かりました。市が大切にしている多くの出土品の内、1020点は国の重要文化財に指定されています。

その八日市地方遺跡から今年7月、大きなニュースが飛び込んできました。公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが北陸新幹線の建設予定地で発掘調査を進めていたところ、木の柄がついた鉄製の「鉋（以下『ヤリガンナ』と表記）」が出土したのです。日本最古となるほぼ完全な姿での発見でした。

このヤリガンナは、日本で鉄器の生産が始まる以前に大陸からもたらされたものです。日本列島に鉄器がどのように広がっていったのかを調べる上で、とても重要な資料となります。

貴重な工具「ヤリガンナ」

ヤリガンナとは、木材の表面を削る工具の一つです。柄に刻まれた繊細な

模様や洗練された形からは、当時、八日市地方で暮らした人々の、大切な道具への感謝と敬う思い、美しさにこだわる心の豊かさが伝わってきます。

使用していた2300年前の姿のまま出土したヤリガンナ。小松のものづくりと交流のルーツに新たな歴史を刻んだ大発見について、その価値と魅力を紹介します。



柄付き鉄製鉋

【えつきてつせいやりがんな】

原寸大



写真・資料／石川県埋蔵文化財センター提供

鉋（ヤリガンナ）

原産地 中国北東部～朝鮮半島北西部
素材 鉄（鍛造）
刃先 三角形両刃

柄

原産地 八日市地方遺跡
素材 イヌガヤ（イヌガヤ科イヌガヤ属）
もしくはカヤ（イチイ科カヤ属）

接続方式

挟み込み式 ①糸によりヤリガンナを固定
②桜の樹皮テープにより組み
合わせ部分を固定

オプション

装飾 グリップ部には斜めの格子文様を
彫り込む

中国大陸	日本	八日市地方
	縄文後期	
	縄文晩期 弥生前期	
春秋戦国		集落誕生 -350年ごろ
	弥生中期前半	
-221年		最盛期
秦		
-202年		
前漢	弥生中期後半	集落廃絶 -80年ごろ 0年
紀元前 0年 紀元後 8年		
新 後漢	弥生後期	
25年		

「ヤリガンナ」使用時期

八日市地方遺跡が魅せる弥生の技と美



愛媛大学
東アジア古代鉄文化
研究センター長
村上 恭通 教授

の遺跡における鉄の道具の存在が確定だと考えられていました。その時期は弥生時代中期前半であり、日本列島で鉄器づくり（鍛冶）が始まる時期までさかのぼります。従って今回発見されたヤリガンナは、中国あるいは朝鮮半島から遠来した鉄の道具ということになります。

一般的に木器がたくさん残るような遺跡は地下水の影響もあって鉄が残りにくいといえます。その点では今回の発見は奇跡的で、鋭い鉄の刃が美しく加工された八日市地方特製の木柄に装着されていたことを見事に示してくれました。ただ、この時代、こういったヤリガンナを入手することはそう簡単ではなかったでしょう。小松の八日市地方に住んだ人々が最先端の舶来道具を入手する「力」を持っていた、ということも読み取ることができます。

特集 日本最古の発見 ～小松のものづくりの 新たなルーツ～

特集に関する問い合わせ 埋蔵文化財センター ☎47・5713

八日市地方遺跡は、全国有数の大規模弥生集落跡です。平野部の低湿地にあるため遺物が良好な状態で残っており、得られる情報はとても多く、全国的にも魅力ある発掘調査現場の一つです。

今回小松市が行っている発掘調査は、開発に伴うだけのものではなく学術的な見地からと聞いています。先人からの大切な遺産を地域が自ら掘り研究することは、全国でも極めて先進的な取り組みだと思います。また、学生達も研究を深めたいという自らの思いで、東京や京都、奈良など各地の大学から12人が集まりました。

知りたいから掘る…



同志社大学 歴史資料館
若林 邦彦 准教授

現在、市では小松駅東駐車場内の発掘調査を行っています。そこで調査に携わった2人にお話を伺いました。

ものづくり発祥の地で ひとつづくり

未来の研究者を育てる

発掘は知識だけではできません。学生は現場で精密な発掘方法と、マネジメント能力を身に着けることが重要です。また、発掘は1人ではなく多くの人との共同作業で成り立ちます。今回も作業や飲食を長期間共にすることで、学生達の間に強い絆が生まれました。このつながりは彼らが将来研究者や文化財保護の仕事に就いたときに必ず役立つ大きな財産になることでしょう。

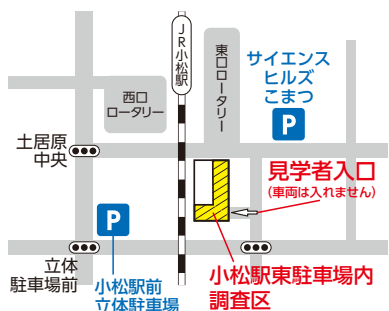
発掘調査は貴重な発見があるだけではなく、そのプロセスがとても重要だと思います。今回小松市が学生を積極的に受け入れたことは、未来の研究者を育てる上で素晴らしい取り組みだと思います。2400年前から続く八日市地方遺跡が、学びの場・人づくりの場として更に発展していくことを期待します。

八日市地方遺跡 発掘調査 現地説明会を開催！

現在、小松駅東駐車場で進めている八日市地方遺跡の発掘調査状況を調査担当者が説明します。

と き 9月9日(土)
10時～と14時～の2回開催
ところ 小松駅東市営駐車場内
(下図参照)

※雨天の場合は順延します。
※発掘調査区域内に一般車両は入れません。
周辺の駐車場から徒歩でお越しください。



発掘の現場に携わってみて



京都大学大学院 博士課程
鶴来 航介さん

小さい頃は宇宙物理学者を目指していましたが、勉強していくうちに人類学に興味湧き、たどり着いたのが考古学でした。

八日市地方遺跡の出土品は、機能美と形態美を兼ね備えたものが多く、道具の変化を考える上でも大変興味深い遺跡です。私にとって発掘の魅力は、遺物の出土状況を自分の目で確かめ、その意味を推察できること、

そして自分で発掘した出土品に愛着を持って調査を行えることです。

今回の発掘調査では、人の活動した痕跡から様々な可能性を考察し、今後の研究につなげていければと思います。また、一緒に作業した仲間達とは、専門は違ってもこれからも継続して意見交換できればと思っています。

平成29年



八日市地方遺跡 発掘調査の歩み

これまでの市の調査により、貴重な出土品が数多く見つかりました。

昭和36年



石川考古学研究会と後藤長平氏による調査風景

平成5年～平成12年



小松駅東土地区画整理事業に伴う発掘調査

平成18年



民間開発に伴う発掘調査

鉄製工具で仕上げた 八日市地方遺跡の 木製品

これまで八日市地方遺跡からは、農具や祭りの道具、様々な生活用品から建築部材に至るまで、たくさんのお優れた木製品が発掘されてきました。中でも、スプーンや容器には細かい装飾と加工が見られ、そのあまりに美しい仕上がりから、研究者の間では、鉄製の工具が用いられたのではないかと考えられていたのです。また、鑄造鉄斧の柄が国内で最も多く出土している点でも注目されていました。しかし、鉄器

自体の出土が無かったため証明には至りませんでした。

そうした中で今回の発見は、八日市地方に住んでいた人達が日本列島でもいち早く最先端の鉄器を仕入れる力を持っていたことを裏付けました。その力の源は、小松産碧玉を使った玉つくりとその交易だったのかもしれない。小松のものづくりのルーツとしてだけでなく、日本海交流の歴史を解明する上でも重要な発見であったといえます。

スプーン(イヌガヤ製)

発見された当時、その美しさが全国的な話題となりました。柄の先端に立体的な装飾を加えるなど、高い技術力とセンスが光ります。



透かし高台付容器(クワ製)

木をくり抜いて作った箱型の容器です。高さのある台を丁寧に作り出し、等間隔の透かし穴で飾るといった手の込んだデザインです。



ジョッキ形容器(クワ製)

取っ手を含めて一つの木から筒形の本体を削り出し、円形の底板を組み合わせて使用していました。ゆるやかにくびれたフォルムは芸術的といえます。



いずれも弥生時代中期。国指定の重要文化財。